教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育総合研究所　　資格： 教授　　氏名： 河合　優年

研究分野	研究内容のキーワード
発達心理学、教育心理学	発達理論、乳幼児発達、発達段階に応じた教育
学位	**最終学歴**
博士（教育心理学）,教育学修士,教育学士	名古屋大学大学院 教育学研究科 教育心理学専攻 博士後期課程 満期退学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1.新・プリマーズ　保育の心理学	2013年04月	編著として第1章、第2章、第3章、第4章、第5章、第12章を担当した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.Excellence in reviewing	2014年受賞	2013年　ELSEVIER (Infant behavior and Development)
2.日本心理学会研究奨励賞	1988年受賞	Development of reaching behavior from 9 to 36 months

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.発達臨床心理士		2007年度資格更新
2.学校心理士		2007年度資格更新
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.児童心理学の進歩 2017年版	共	2017年06月30日	金子書房	編者：河合優年・斉藤こずゑ・高橋和音・内藤美加・高橋惠子・山祐嗣
2.新・発達心理学ハンドブック	共	2016年07月	福村出版	難波久美子・河合優年　マイクロアナリシス（VI部75章1節） 田尻信元・岩立志津夫・長崎勤(編)　(pp.861-867)
3.児童心理学の進歩 2016年版	共	2016年06月20日	金子書房	稲垣佳世子・河合優年・斉藤こずゑ・高橋惠子・高橋和音・山祐嗣(編)
4.児童心理学の進歩 2015年版	共	2015年06月20日	日本児童研究所 金子書房	稲垣佳世子・河合優年・斉藤こずゑ・高橋惠子・高橋和音・山祐嗣(編)
5.看護実践のための心理学（改訂4版）	共	2015年02月	メディカ出版	編著　心理学的なケースのとらえ方case1～15
6.児童心理学の進歩 2014年版	共	2014年06月	日本児童研究所 金子書房	平木典子・稲垣佳世子・河合優年・斉藤こずゑ・高橋惠子・山祐嗣(編)
7.臨床ストレス心理学	共	2013年09月	東京大学出版会	河合優年・佐藤安子（第１章）発達的視点からみたストレス研究の基礎と臨床 津田彰・大矢幸弘・丹野義彦（編）（pp.25-40）
8.児童心理学の進歩 2013年版	共	2013年06月20日	日本児童研究所 金子書房	編者：編者：平木典子・稲垣佳世子・河合優年・斉藤こずゑ・高橋惠子・湯川良三
9.新・プリマーズ　保育の心理学	共	2013年04月	ミネルヴァ書房	河合優年・中野茂（編著）第1章・第2章・第3章・第4章・第5章・第12章 pp3-76,pp169-179
10.生涯発達心理学[第2版]	共	2012年10月	ナカニシヤ出版	第３章　胎児期・乳児期 二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次（編者）(pp. 31-48)
11.児童心理学の進歩	共	2012年06月	日本児童研究所	編者：平木典子・稲垣佳世子・河合優年・斉藤こずゑ・高橋惠子・

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2012年版		20日	金子書房	湯川良三
12.発達科学入門[１]理論と方法	共	2012年06月	東京大学出版会	ダイナミックスシステムズ・アプローチ　高橋惠子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子（編者）（pp. 212-213）
13.発達科学入門[2]胎児期～児童期	共	2012年02月	東京大学出版会	Ⅱ乳児期3運動高橋惠子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子（編者）(pp.79-88)
14.学校心理学ガイドブック　第３版	共	2012年02月	風間書房	６章　発達心理学1.　学校教育の基盤としての発達心理学　2.　認知発達　．学校心理士資格認定委員会（編者）．(pp.79-87)
15.児童の心理と発達	共	2011年	東京書籍.	いのちを輝かせる生涯福祉の実践 村田良輔・下川仁夫（編著）（pp.13-30）
16.発達心理学　Ⅰ	共	2011年	東京大学出版会	３章　乳児期 無藤　隆・子安増生（編著）（pp.149-179）
17.縦断研究の挑戦―発達を理解するために	共	2009年02月	金子書房	河合優年・荘厳舜哉・根ヶ山光一・矢藤優子・難波久美子 ３章　母子交渉と発達―短期縦断研究の結果から見えてくるもの 三宅和夫・高橋惠子(編著)p.71-87
18.改訂3版　看護学実践のための心理学	共	2009年	メディカ出版	河合優年（編）
19.心理学におけるダイナミカルシステム理論	共	2008年06月	金子書房	河合優年・岡林春雄（編著）（pp,26-50 ,pp,53-64 ,pp,65-81, pp,180-181 ,pp,214-215)第2章ダイナミカル・システム・アプローチ（DSA）の基本的な考え方（岡林春雄・河合優年・中川正宣・千野直仁）第3章　発達心理学にみるダイナミカルシステム研究（アラン・フォーゲル,河合優年訳）第4章発達心理学とダイナミカルシステム理論（河合優年）第9章心理学におけるダイナミカルシステム・アプローチ（DSA）－今後の展望－（岡林春雄・河合優年・中川正宣・千野直仁）,Apendix:English version Chapter4-Abstract.
20.Current problems of Japanese youth : some possible pathways foe alleviating these problems from the perspective of dynamic systems theory.	共	2008年	Cambridge University Press	Alan Fogel & Masatoshi Kawai Alan Fogel,Barbara J.King, and Stuart G.Shanker(Ed.), Human Development in the Twenty-First Century -Visionary Ideas from Systems Scientists-(pp.188-199).
21.調査実験　自分でできる心理学	共	2007年04月	ナカニシヤ出版	32名のため省略　編集者：大野木裕明，宮沢秀次，二宮克美，河合優年(pp,40-43)
22.感情の心理学	共	2007年04月	放送大学教育振興会	2感情の起源、4乳児の感情、12感情と文化、13感情と音楽　高橋惠子，仲真紀子，河合優年（編著）（pp.22-31,154-164,165-175,190-201）
23.ガイドライン　生涯発達心理学	共	2006年06月	ナカニシヤ出版	二宮克美，大野木裕明，宮川充司，田中俊也，中島実，宮沢秀次，原田唯司，吉田直子，浅野敬子，後藤宗理，河合優年
24.生涯発達心理学		2006年	ナカニシヤ出版	3章　胎児期・乳幼児期　河合優年・二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次（編著） (pp29-44)
25.兵庫教育特集　時代と教育ー子どもにとって「わかる」とは	共	2006年	兵庫県教育委員会（発行）	わかるということについて 兵庫県立教育研修所（編）(通巻670号）（pp40-45）
26.マルチラテラル心理学	共	2006年	有斐閣	中島義明，繁枡算男，箱田祐司，安藤清志，子安増生，坂野雄二，立花政夫，河合優年(感覚間相互作用、ゲイガン、原始反射、姿勢反射、周産期、馴化/脱馴化、新生児期、胎教、定位反応、把握反射、ブロンフェンブレンナー、モロー反射（12項目執筆）
27.キーワードコレクション　発達心理学［改訂版］	共	2004年03月	新曜社	子安増生，内田伸子，落合正行，河合優年，木下孝司，斉藤文夫，二宮克美，松沢哲朗，渡辺雅之 本書は、発達心理学の研究方法と理論、胎児から死の受容に至るまでの生涯発達を、50個のキーワードで解説した初版を、研究の進歩にあわせて改訂したものである。８「生態学的アプローチ」、９「ダイナミック・システムズ・アプローチ」、13「熟達化」、16「児童観」、20「出生前心理学」の５項目を担当している。担当（pp.36～43，pp.58～61，pp.70～73，pp.88～91）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
28.中学生の規範意識（変容する子どもたち）	共	2003年06月	みるめ書房	内藤勇次，山口芳弘，川野賢一郎，河合優年，洲脇一郎 神戸市立中学校長会による中学生の規範意識調査として、1999年から４年間、のべ3500人の中学生を対象に質問紙調査を行った。その結果、触法行為に対して法に触れない携帯電話や茶髪などの行為は容認されやすく、進級する毎に容認の割合が増加、規範意識が弱くなることが明らかとなった。また本書には、教員らによる座談会や教育学者による分析、昨年度「シリーズ学校」を連載した神戸新聞社会部の寄稿等も収められている。
29.言語獲得以降の情動の発達（社会・情動発達とその支援）	共	2002年08月	ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房	鯨岡峻、河合優年、繁多進（編）
30.認知発達と進化　第２章　運動の発達	単	2001年05月	認知科学の新展開１　乾　敏郎・安西祐一郎（編）岩波書店	本書は、現代認知科学の先端領域に関する研究を集めたものである。本著の中では、不随意適な運動が統制される過程について、その解発刺激としての重力の問題が扱われている。（pp.37～66）
31.発達の理論	単	2000年02月	発達と学習の心理学　２章　福村出版　多鹿秀継・鈴木眞雄（編）	本著は、発達心理学の領域における主要な理論を概観し、発達の機構とその心理学的な意味について考察したものである。（pp.18～29）
32.心理学事典	単	1999年01月	中島　義明・安藤　清志・子安　増生・坂野　雄二・繁桝　算男・立花　政夫・箱田　裕司（編）　有斐閣	本事典の中では、発達に関する項を担当している。
33.発達を作り出すもの	単	1998年03月	発達心理学　小嶋秀夫（編）　放送大学教育振興会	発達現象をどのように理論的に説明するのかが、この章の目的である。私たちの行動の中で、時間とともに変化する遺伝的特徴を持つものと、学習によって作られる環境形成的特徴を持つものを上げながら、発達のメカニズムについて論じている。（pp.53～60）
34.種々の機能が働き始める時	単	1998年03月	発達心理学　小嶋秀夫（編）　放送大学教育振興会	人の感覚運動機能がどの様に発達してゆくのかを、視覚・聴覚・運動の各機能ごとに述べている。これらの機能は、従来発達の遅い時期に形成されるとされてきたが、今日ではすでに胎児期に形成されていることが明らかとされている。本章では、発達初期の機能が後の正常発達を準備するものとして、重要であることを論じている。（pp.44～52）
35.ヒトから人へ	単	1998年03月	発達心理学　小嶋秀夫（編）　放送大学教育振興会	生物学的存在としての「ヒト」が、社会的存在としての「人」になる過程について述べたものである。主な内容としては、胎児期の活動からはじまる発達段階ごとの行動特徴、その発達的意味についての記述などを中心とした、初期発達に関するものとなっている。（pp.36～43）
36.観察法	単	1997年04月	北大路書房　中沢　潤（編）	ここでは、心理学研究法の中でよく用いられる観察法の、時間分析に関する方法論を中心に、行動解析の方法について述べている。時間分析に関する方法については従来あまりなく、筆者の導入したマイクロ分析は、これからの心理学研究の一つの方法を示すものとして多く引用されている。（pp.108～121）
37.自分でできる心理学　第３章　身体の左右差について考える	単	1997年04月	宮沢　秀次キ二宮　克美、大野木裕明（編著）ナカニシヤ出版	本著は、心理学の入門者を対象としたミニ実践研究の為のものである。身体の左右差をもとに、脳内の機能差について考えさせ、行動と大脳生理学に関する関心を引き出すことを目的としている。（pp.12～15）
38.乳幼児期の視覚運動発達	単	1997年03月15日	風間書房	本著は、専門書として位置づけられるものである。乳児期から幼児期にいたる上肢運動の発達的変化について、大脳生理学的側面・行動学的側面から検討を加え、初期発達のメカニズムを明らかにしようとしている。この中では、新しい発達の理論としてのダイナミックシステムズモデルが提唱されている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
39.看護実践のための心理学	単	1996年10月	メディカ出版	本著作は、心理学の知見を看護実践の中でどのように生かすのかを視野にいれて、出版された実践書である。全体の編集と個人差に関する章の担当をしている。個人差の部分では、行動特性をどのように理解すればよいのかなどを通して、個人差を認めることの重要性を述べている。（pp.127～134）
40.社会の中での発達	単	1993年	教育心理学　放送大学教育振興会	原岡一馬（編）
2 学位論文				
3 学術論文				
1.心理的バイタルサイン（Psychological vaital sign:PVS)に職業性ストレス簡易調査票を併用したメンタルヘルスチェック	共	2018年09月01日	日本医療マネジメント学会雑誌	鈴木里奈、河合優年、山本初実　Vol19 number2 2018 pp.98-102
2.看護学生の心理的バイタルサイン（Psychologicalvital sign:PVS）の上限値・下限値の設定と自己評価システムの構築に関する国立病院機構多施設共同研究	共	2018年08月09日	国立医療学会発行　医療	成瀬美恵、安井千枝、武岡良展、瀬分亮、金田瞳、石橋綾子、三輪満貴代、三田地泉美、榊原美穂、小林由里、澤味小百合、三浦美和子、安藤惠子、増山玲子、石原尚美、池田宏子、佐藤三春、橋本笑子、鈴木里奈、田中滋己、河合優年、山本初実　Vol.72 No.8/9 pp.363-368
3.児童生徒の心理的状態把握とその追跡の方法に関する研究ー9大学連携共同研究「子どもみんなプロジェクト」の西宮市における取り組みー	共	2017年03月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科	河合優年・高井弘弥・寺井朋子・佐々木惠・坂田智美・大和一哉・谷口麻衣・星川雅俊・加苅頼子・河合純孝 『臨床教育学研究』23. pp.1-12
4.武庫川女子大学教育研究所/子ども発達科学センター2016 年度活動報告	共	2017年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート	河合優年・難波久美子・佐々木惠・石川道子・玉井日出夫 47、pp141・155
5.西宮市公立小中学校におけるQUを用いた短期縦断的研究	共	2016年03月	臨床教育学研究	河合優年、寺井朋子 22.pp.69-77
6.武庫川女子大学教育教育研究所/子ども発達科学研究センター2015年度活動報告	共	2016年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート	河合優年・難波久美子・佐々木惠・石川道子・玉井日出夫.46.103-123
7.発達援助職養成者を育てるー武庫川女子大学臨床教育学研究科の20年をふまえてー	単	2015年06月	群青社　　日本臨床教育学会編集	臨床教育学研究第3巻.pp.67-77
8.武庫川女子大学教育研究所/子ども発達科学研究センター2014年度活動報告	共	2015年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート	河合優年・難波久美子・佐々木惠・石川道子・玉井日出夫　45. pp.67－82
9..看護学生の心理的バイタルサイン標準化の試み.	共	2015年01月	医療，　国立医療学会誌	青樹智美・武岡良展・瀬分亮・駒井恵子・成瀬美恵・鈴木八千代・折山久栄・三浦美和子・山本薫里・佐藤安子・河合優年・田中滋己・山本初美　69(1)，　pp.4-11.
10.Cold blood CD25 regulatory T cells	共	2014年05月	production and expression of	Liqing Xu, Shigeki Tanaka, Motoki Bonno, Masaru Ido, Masatoshi Kawai, Hatsumi Yamamoto, & Yoshihiro Komada

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
fail to inhibit cord blood NK cell functions due to insufficient			TGF-betal,	Cellular immunology, pp.89-95.
11.武庫川女子大学教育研究所/子ども発達科学研究センター2013年度活動報告	共	2014年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート	河合優年・難波久美子・佐々木惠・石川道子・玉井日出夫　44. pp.111－129
12.Cord blood CD4+ CD25 regulatory Tcells fail to inhibit cord blood NK cell functions due to insufficient production and expression of TGF-betal.	共	2014年	Cellular Immunology,	Xu,L.,Tanaka.S.,Bonno.M.,Ido.M.,Kawai.MYamamoto.H.,Komada.Y. 290(1) pp.89-95
13.武庫川女子大学教育研究所/子ども発達科学研究センター 2012年度活動報告書	共	2013年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート	河合優年・難波久美子・佐々木惠・石川道子・玉井日出夫　43, pp.101－122
14.就学児前幼児の唾液中αアミラーゼ活性と意慾との関連	共	2012年05月	小児保健研究	小花和Wright尚子・河合優年・山本初実　71,3,pp.360-365
15.武庫川女子大学教育研究所/子ども発達科学研究センター2011年度活動報告	共	2012年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート	河合優年・難波久美子・佐々木惠・石川道子・玉井日出夫　42Pp. 107-121
16.小学生の職業観におよぼすキッザニアでの体験学習の効果についてーキッザニアを活用した職業教育の可能性ーLbD: Learning by doing 報告書	共	2012年02月	武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科LbD研究グループ	河合優年、茅野宏明　長岡雅美・高橋和美・丸山努・前田江里子・中村太輔・奥村邦彦・吉田安弥乃・石田久美子・片山まゆみ
17.武庫川女子大学教育研究所／子ども発達科学研究センター 2010年度活動報告	共	2011年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート	河合優年・難波久美子・佐々木　惠 41号,pp.65-91.
18.母子相互作用場面における表情の同調・調律と子どもの分離不安反応型：4ヶ月齢と9ヶ月齢の比較	共	2011年	国際幼児教育研究,	荘厳舜哉・難波久美子・矢藤優子・河合優年 19,pp.19-28.
19.-初期研修に向けて:新生児の潜在能力はすごい-母性を引き出す新生児行動	単	2010年12月	周産期医学	40(12).pp.1752-1755
20.中高一貫教育10年目の検証（1）：一貫校生徒による一貫教育に関する評価結果について	共	2010年10月	全国中高一貫教育研究会紀要第6号, 全国中高一貫教育研究会	河合優年・勝山元照・斎藤真子・矢木修・植田健男 pp.3-10
21.武庫川女子大学教育研究所/子ども発達科学研究センター2009年度活動報告	共	2010年03月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート	河合優年・難波久美子・佐々木惠　40.pp.82-129

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
22.Infant Responses to Maternal Still-Face at 9 Months predict Social Abilities at 18 Months		2010年02月	Journal of Epidemiology,	Yuko Yato,Daisuke Tanaka,Ryoji Shinohara,Yuka Sugisawa,Emiko Tanaka,Lian Tong,Noriko YAmakawa,Tokie Anme,Masatosi Kawai, Tadahiko Maeda,and Japan Children’ s Study Group. 20(Suppl 2),S435-S440.
23.Developmental Trends in Mother-Infant Interaction from 4-months to 42months:Using an Observation Technique	共	2010年02月	Journal of Epidemiology,	Masatoshi Kawai,Kumiko Namba,Yuko Yato,Koichi Negayama, Shunya Sogon,Hatsumi Yamamoto,and Japan Children’ s Study Group 20(Suppl 2),S427-S434
24.Mission in Sukusuku Cohort, Mie:A study Focusing on the Characteristics of Participants and the Mental Health of the Mothers Raising Children	共	2010年02月	Journal of Epidemiology,	Yamakawa,N.,Koike,H.,Ohtani,N.,Bonno,M.,Tanaka,S.,Ido,M., Komeda,Y.,Kawai,M.,&Yamamoto,H 20(Suppl 2),S413-S418
25.Mission in Sukusuku Cohort, Mie:Forcusing on the Feasibility and Validity of Methods of Enrolling and Retainind Participants	共	2010年02月	Journal of Epidemiology,	Noriko Yamakawa,Haruka Koike,Noriko Ohtani,Motoki Bonno, Shigeki Tanaka, 20(Suppl 2),S407-S412
26.子ども研究のこれから	共	2010年	チャイルド・サイエンスVol.6 pp. 24-27	河合優年・難波久美子・佐々木惠
27.母性を引き出す新生児行動・周産期医学	単	2010年	周産期医学	40(12), pp.1752-1755
28.Behavioral Characteristics of Children with High Functioning Pervasive Developmental Disorders during a Game.	共	2010年	Jounal of Epidemiology	Kawaguchi,H.,Murakami,B.,&Kawai,M. 20(Suppl2),S490-S497
29.Infant Reaponeses to Maternal Still Face at 9 Months predict Social Abilities at 18 Months.	共	2010年	Journal of Epdemiology	Yato,Y.,Tanaka,D.,Shinohara,R.,Sugisawa,Y.,Tanaka,E.,Tong, L.,Yamakawa,N.,Anme,T.,Kawai,M.,Maeda,T&Japan Children’ sStudy Group 20(Suppl2),S435-440
30.Behavioral development of infant holding and its laterality in relation to mother’s handedness and child-care attitude,	共	2010年	Infant Behavior and Development 2010	Nagayama,K,.Kawai,M.,Yamamoto,H.,To,iwa,K.,Sakakibara,Y.,& Japan Children’s StudyGroup 33 pp68-78

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
31.Contribution of Parenting Factors to the Developmental Attainment of 9-Month-Old Infants: Results From the Japan Children's Study.	共	2009年	Japan Epidemiological Association 2009	Shunyue Cheng,Tadahiko Maeda,Kiyotaka Tomiwa,Noriko Yamakawa,Tatsuya Koeda,Masatoshi Kawai,Tamiko Ogura,and Zentaro Yamagayta,for the Japan Children's Study Group 19 (6) .pp.319-327
32.Mission in Sukusuku Cohort, Mie:Forcusing on the Feasibility and Validity of Methods for Enrolling and Retainind Participants.	共	2009年	Supplement to Journal of Epidemiology 2010　日本疫学会 Japan Epidemiological Association	Noriko Yamakawa,Haruka koike,Noriko Ohtani, Motoki Bonnno, Shigeki Tanaka,Masaru Ido,Yoshihiro Komada,Masatoshi Kawai, and Hatsumi Yamamoto 20(2). p.s407-412.
33.Mission in Sukusuku Cohort, Mie:A study Focusing on the Characteristics of Participants and the Mental Health of the Mothers Raising Children	共	2009年	Supplement to Journal of Epidemiology	Noriko Yamakawa,Haruka Koike,Noriko ohtani,Motoki Bonno, Shigeki Tanaka,Masaru Ido,Yoshihiro Komada,Masatoshi Kawai, and Hatsumi Yamamoto 20(2).p.s413-418, Japan Epidemiological Association
34.Developmental Trends in Mother-Infant Interaction from 4-months to 42months:Using an Observation Technique	共	2009年	Supplement to Journal of Epidemiology	Masatoshi Kawai,Kumiko Namba,Yuko Yato,Koichi Negayama, Shunya Sogon,Hatsumi Yamamoto,and Japan Children's Study Group 20(2).p.s427-434,Japan Epidemiological Association
35.Infant Responses to Maternal Still-Face at 9 Months predict Social Abilities at 18 Months	共	2009年	Supplement to Journal of Epidemiology	Yuko Yato,Daisuke Tanaka,Ryoji Shinohara,Yuka Sugiksawa, Emiko Tanaka,Lian Tong,Noriko Yamakawa,Tokie Anme,Masatoshi Kawai,Tadahiko Maeda,and Japan Children's Study Group 20 (2)p.s435－440, Japan Epidemiological Association
36.（資料論文）中高一貫教育10年目の検証（1）：　中高一貫教育のなりたちと展望：中高一貫教育の評価に向けて	共	2008年10月	全国中高一貫教育研究会紀要　全国中高一貫教育研究会	河合優年・勝山元照・斎藤真子・矢木修・植田健男 第4号　pp.3-13
37.Behavioral development of infant holding and its laterality in relation with mothers' handendess and mothering		2008年10月	Infant behavior and development	
38.音楽と情動の心理学－音楽と情動獲得の知覚と認知の機構を考える－	共	2008年03月	臨床教育学研究	Kawai, Masatoshi., Michael J. Di Stasio
39.Music and the	共	2008年	臨床教育学研究	Kawai, Masatoshi and Michael J. Di Stasio 14,pp.1-18.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Psychology of Emotion : Examining the Cognitive and Perceptual Features of Music/ Emotion Acquisiton.				
40.Infant Responses to Maternal Still-Face at 4 and 9 Months.	共	2007年	Infant Behavior and Development,	Yuko Yato, Masatoshi Kawai, Toshiya Kayamura, Koichi Negayama, Shunya Sogon, Kiyotaka Tomiwa, Hatsumi Yamamoto.
41.　新生児の知覚発達と母子相互作用について.	共	2007年	NICUｍａｔｅ　ニキュ・メイト,	斉藤雅子・田中宏幸・小森慎二・河合優年 18, p.3-4.
42.2006年国際ワークショップ・公開講演会報告	単	2007年	発達研究,	21,pp.203-218.
43.地域における乳幼児歯科保健－第１報 乳歯う触罹患を測定する属性と歯科保健行動－	共	2007年	「滋賀医科大学看護大ジャーナル」	上間美穂・川井八重・畑下博世・菱田知代・但馬直子・河合優年・安田斎 5(1),32-37
44.Hikikomori in Japanese Youth: Some Possible Pathways for Alleviating this Problem from the Perspective of Dynamic Systems Theory	共	2006年03月	乳幼児発達臨床センター年報 Research and Clinical Center for Child Development. Annual Report 2004-2005,	Masatoshi Kawai & Alan Fogel 28, pp.1-12.
45.肺癌患者の精神的サポートに対するMBSS (Monitor Bluntor Style Scale)の有用性の検討 : 第2報(第88回 日本肺癌学会中部支部会,中部支部,支部活動).	共	2006年	肺癌,　日本肺癌学会,	井端英憲・橋本美沙・山上知也・大本恭裕・渡邉文亮・金田正徳・坂井隆・山本初実・田口修・河合優年・Miller Suzanne 46(3),pp.297-298
46.Emergence of physiological rhythmicity in term and preterm neonates in a neonatal intensive care unit.	共	2006年	Journal of Circadian Rhythms,	Esmot ara Begum, Motoki Bonno, Makoto Obata, Hatsumi Yamamoto, Masatoshi Kawai, Yoshihiro Komada. pp.1-7
47.日本の子供の健やかな未来のために-第2報-すくすくコホートにおける三重研究グループでの短期予備的研究の被験者確保とその維持-.	共	2006年	医療,　国立医療学会誌,	大谷範子・山本初実・牧野智美・松岡佐恵子・植村晃子・玉木淳子・山川紀子・井戸正流・河合優年　60(9),　pp.569-575.
48.NICU LANシステムを利用した低出生体重児に対するカンガルーケアの生理学的検証	共	2005年	「周産期医学」	大谷範子・盆野元紀・山下成子・神野都志乃・稲垣純子・鯖戸ふじ子・伊藤美津江・澤田博文・田中滋己・山本初実・多喜紀雄・河合優年・駒田美弘　35(9),　1295-1300.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
49.ストレス場面からの回復過程を規定する　新しい認知モデル構築の試み	共	2004年09月	武庫川女子大学大学院　臨床教育学研究	佐藤安子・河合優年　11,p189-204..
50.家庭の教育力について考える	単	2004年03月	研究紀要　財団法人日本教材文化研究財団　No.33　家庭の教育力の復権	本論文では、家庭における教育力が本当に低下してきたのか、また、もしそうだとするならばその原因はどこにあるのか、という点について考察している。子どもを取り巻く直近の環境は家庭であるが、その家庭はより上位の環境と相互に関係している。家庭の教育力は今日の社会が持つ力動的な病理という視点から、家庭の教育力について論述している。全（pp.50～55）
51.初等・中等教育における知的財産教育のありかたについて	単	2004年03月	三重大学平成15年度受託研究　大学における知的財産教育研究報告書	本論文は、初等・中等教育における知的財産教育をどのように展開すればよいのかについての展望論文である。総合的な学習など、新たな授業展開が可能となっているが、規範意識をどのように形成するかについては、工夫が必要となる。本報告では、こらまでの文部科学省の取組などを含めた概要を展望している。全（pp.3.8.1～3.8.5）
52.システムとしての発達を考える	単	2004年03月	ベビーサイエンス　2003	本論文では、上肢運動の発達研究を題材として、単一の機能のトレースではその発現機構の一部しか解読しえない可能性が高いこと、システムとしてのダイナミックな変化こそ発達研究の対象であるということについて議論している。vol.3 pp2-7
53.肺癌患者の精神的サポートに対するMBSSの臨床的有用性の検討(第1報)	共	2004年	肺癌,　日本肺癌学会,	井端英憲・西井義典・山上知也・大本恭裕・渡邊文亮・金田正徳・坂井隆・山本初実・河合優年・田口修・Miller Suzanne 44(7), p.800-801
54.中高一貫教育の現状と展望（Ⅱ）	単	2003年10月	武庫川女子大学教育研究所　研究レポート　30号	中高一貫教育の現状と展望（Ⅰ）においては、導入の経緯などについて議論を行ったが、（Ⅱ）では、法的な整備と教育課程について検討を行った。
55.ストレス場面からの回復過程を規定する　新しい認知モデル構築の試み.	共	2003年	臨床教育学研究 武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科	佐藤安子・河合優年 11.pp.189-204
56.ストレス刺激に対する反応の規定要因に関する理論的考察～自己統制の視点からみた内的過程.	共	2003年	臨床教育学研究, 武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科,.	佐藤安子・河合優年 第9号pp.61－78
57.中高一貫教育の現状と展望（Ⅰ）		2002年12月	武庫川女子大学教育研究所研究レポート	中高一貫教育の歴史的背景について、46年答申、臨教審答申を中心に議論したものである。今日の中等教育改革の流れをその源流からながめている。全（29号pp.107～124）
58.出生直後の新生児－児の有能性と子育てについて考える－	単	2002年10月	周産期医学　32巻臨時増刊	新生児の視力検査方法、行動評価方法を紹介し、その方法によって得られた知見を述べている。全（pp.400～404）
59.新生児期の感覚・運動発達と胎外環境への適応	単	2002年08月	小児科(学術雑誌)	新生児の感覚運動発達をシステムズアプローチの視点から切り取り、新生児医療のあり方について概観した上で、実験データを含めて適応との関係から議論している。全（43巻８号 pp.1069～1075）
60.看護学生から看護師への共感性の発達(第1報)共感尺度得点からの検討.	共	2002年	看護研究,	林智子・河合優年 35(5)(通号171),p.453-460
61.看護学生から看護婦への共感性の発達(第2報)―シミュレートされた看護場面への反応の分析―	共	2002年	三重看護雑誌,	林智子・河合優年 4(2),p.31-35
62.新生児期の感覚・運動発達と胎外環境へ	単	2001年12月	日本小児科学会誌　105巻　12号	子宮外環境への適応を、感覚運動系の発達から捉えた論文である。システムとしての発達が述べられている。（pp.1311～1315）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
の適応				
63.赤ちゃんはいつからどのように触角刺激を感じるの？	単	2001年07月	周産期医学　第31巻　７号　東京医学社	胎児が持つ感覚機能について、神経学的、行動学的視点からの議論がなされた。（pp.934～935）
64.ナースのための研究法入門⑤	単	2001年03月	Neonatal Care 3 Vol.14　メディカ出版	本著では、研究全体の流れと、論文の構成について述べられた。（pp.82～85）
65.ナースのための研究法入門④	単	2001年02月	Neonatal Care 2 Vol.14　メディカ出版	本著では仮説演繹的な研究方法について議論された。帰納的方法が発見的であるのに対して、演繹的方法が検証的方法であることが述べられている。（pp.77～81）
66.ナースのための研究法入門③	単	2001年01月	Neonatal Care 2 Vol.14　メディカ出版	本著では、実施の研究場面をシミュレーションして、研究計画を立てるということについて述べられた。これまでの変数の統制などを理解しながら、研究を進める方法が議論されている。（pp.35～39）
67.新生児の感覚運動発達とその適応的意味	単	2001年	日本小児科学会誌，　メディカ出版，　105(12)	pp.1126-1129.
68.ナースのための研究法入門②	単	2000年12月	Neonatal Care 12 Vol.13　メディカ出版	本著は、研究法の中でも、要因の統制の必要とその方法が議論されている。研究結果が適切に分析されるためには、条件の統制が重要である。この統制という考え方が述べられている。（pp.26～30）
69.ナースのための研究法入門①	単	2000年11月	Neonatal Care 11 Vol.13　メディカ出版	本著は、観護研究の方法論を論じたものである。この号では、研究とはどのようなものか、またその捉え方はどこにあるのかなどが述べられている。（pp.38～42）
70.母性のシステム的理解について	共	2000年06月	日本母性看護学会誌　2000，Vol.1（1）	河合優年・山本初実 本著では、母性性の理解を、母親を取り巻く諸要因との関係性から捉えている。これらから、母性性と父性性には共通のコアあることなどが明らかとなった。分担　河合（pp.27～34）
71.ダイナミカルシステムモデルは発達研究になにを与えるのか	単	2000年02月	児童心理学の進歩　金子書房2000，	日本児童研究所(編) 本著は、三嶋らのダイナミックシステムズモデルと発達についての議論に対して、その意味をコメンタリーとして述べたものである。新しい研究のフレームとしてのモデルの可能性が述べられている。（pp.249～253）
72.文化特異的養育行動と子供の発達－中国内蒙古における幼児教育と子供を取り巻く環境に関する予備的調査－	共	1999年03月	三重大学教育学部研究紀要　1999，Vol.50，	河合優年・郭子蘭・佐藤朗子・馬樹清・郭立紅 本論文では、中国内蒙古の幼児教育の様子と、その背景として存在する、幼児教育観との関係が論じられている。分担　河合（PP.161～179）
73.新生児行動と環境	単	1999年02月	Neonatal Care 1999,Vol.12(2). メディカ出版	本著では、新生児行動学が持つ意味について、新生児行動とそれに影響する環境という側面から議論している。視覚・聴覚・運動という、人の基本的な機能系がどのようにして出現するのか、また、それが他の機能系とどのように関係しているのかについて詳述されている。さらに、後の発達にとっての意味についても議論されている。（pp.16～20）
74.New-born's spontaneous arm movements are influenced by the environment	共	1999年	Early human development, 54	河合優年・Savelsbergh, G.J.P.・Wimmer, R.H. 本論文は、新生児の行動が何によって解発されるのかについて述べたものである。人間の赤ん坊は、誕生とともに、外的な環境にさらされることになる。このような環境が、どのような影響を与えるのかについては、まだ明確な見解がない。ここでは、新生児の行動をマイクロ分析し、環境がどのような影響を与えているのかについて、水中での行動と、空気中での行動を比較検討している。分担　河合（pp.15～27）
75.母子関係の成り立ちと後の発達	単	1998年01月	Neonatal Care 1 Vol.11　メディカ出版	母子関係を成り立たせているものはなにか、またそれを持続させているものは何かについて述べている。このような初期の母子関係の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				成り立ちが愛着の形成と密接に関係している。（pp.10～16）
76.救急看護教育の実施と評価	単	1997年03月	救急看護学の教授方略および評価に関する研究　文部省特定研究報告書	（河合優年・中西貴美子）□本著は、救急看護に関する、特別講演の内容と、その教育評価をまとめたものである。講演録が中心であるが、学生の評価と理解力についての、統計的な検討が加えられている。教育評価を目的とした、実験的な講演授業録である。分担　河合（pp.11～64）
77.現代医療とこころ	単	1997年03月	21世紀の長寿社会と看護　公開講座報告書	本著は、公開講座の内容を、資料を加えて整理しなおしたものである。現代医療では、こころの問題が重要視されながら、なかなかこころが中心に位置づけられていない。本著では、見えないこころをどのようにとらえているのか、その重要性はどこにあるのかを、心理学的な立場で議論している。（PP.７～10）
78.The Development of Hand Movement During Presentation of an Object	単	1997年03月	Bulletin of College of Medical Sceience Mie University,	本研究は、乳児に対して、視覚刺激を提示した時の上肢運動をマイクロ分析したものである。上肢の動きは、視覚刺激の有無によって上肢運動が変化すること、特に、刺激が提示されると、上肢の運動が抑制されることが明らかになった。また、微視的な検討では、指の開閉動作がみられ、発達初期においても視覚運動の協応動作が観察されることが示された。（pp.15～23）
79.子どもを取り巻く環境の変化とその問題点	共	1997年03月	三重大学医療技術短期大学部　紀要　Vol.６	河合優年・多喜紀雄 本著は、21世紀の小児医療のあり方について、今日の問題点を明記しながら、人口動態などから予測される来世紀の子どもの問題について議論したものである。国立病院副院長との共著であるが、互いの立場からの意見が述べられている。総説として書かれている。分担　河合（pp.１～５）
80.ＰＰＦモデルによるディスコミュニケーション分析の試み	共	1997年03月	三重大学医療技術短期大学部　紀要　Vol.６	河合優年・廣岡秀一 本論文は、社会心理学の領域でモデルとして、ロスやワイナーなどによって提唱された、帰属モデルを使って人間関係の理解を試みたものである。従来これらのモデルは、看護領域で応用的に適用されたことがないが、本研究では、モデルを実践的な枠組みで捉えなおして、さらに事例に当てはめて検討している。分担　河合（pp.７～11）
81.Developmental changes of early eye hand coordination in human infant-From the dynamic systems mode-	単	1996年09月	International Symposium, The Emergence of Human Cognition and Language	本論文では、ダイナミックシステムズモデルからみた、初期運動発達のようすが述べられている。
82.認知・言語の成立総括と研究の展望	単	1996年03月	重点領域研究　認知・言語の成立論文集（２）	本論文は、河合の行った生児・乳児期における感覚運動系の解発機構に関するこれまでの研究をまとめこれからの研究のありかたについての指針を示すことを目的として執筆されたものである。乳児・幼児研究が、後の発達とどのように関係するのか、また、その出現機構はどのようになっているのかについて論じられている。（pp.300～305）
83.Early Eye-Hand Coordination in Prematurely Born Babies	単	1996年03月	重点領域研究　認知・言語の成立報告書（まとめ）	本論文では、発達初期の視覚と運動の機構を解明するため未熟児を対象とした、視覚運動研究の結果が報告された。この結果、胎児期にあたる週齢でも、視覚的に導かれた上肢運動が観察されることが見いだされた。この結果は、運動発達の成熟論と学習論に一石を投ずるものであった。（pp.142～143）
84.精神・心理的ストレッサー　～喪失～	単	1996年03月	ストレス（病）に対する看護について　教育研究特別経費研究報告書	本論文は、精神・心理的ストレスとして、比較的強度の強い、喪失経験の持つ意味と、その評価方法について述べたものである。位置づけとしては、看護となっているが、ストレス経験としては、より一般的な問題として位置づけられることが述べられている。（pp.31～38）
85.救急看護とコーディ	単	1996年03月	モデルプランによ	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ネーション			る救急看護学教授の効果に関する教育臨床的研究　文部省　特定研究報告書	本論文では、救急医療場面で要求される、患者・家族医療関係者の間の、コーディネーションの問題について、今日問題となっている、移植医療を例に取りながら検討を加えている。ネットワークの構築と、人間関係のあり方について、心理学的な視点から検討している。（pp.42～48）
86.救急看護教育の実施と評価.　救急看護学の教授方略および評価に関する研究,	単	1996年	特定研究報告書, 文部省	
87.救急看護とコーディネーション.　モデルプランによる救急看護学教授の効果に関する教育臨床的研究,	単	1996年	特定研究報告書, 文部省	
88.乳児期における視覚刺激提示時の上肢運動	単	1996年	三重大学医療技術短期大学部　紀要　VOL.５	乳児の上肢運動を視覚刺激との関係から検討したものである。視覚刺激によって誘発される上肢運動は、基本的な運動コンポーネントを含んでいることが明らかにされている。（pp.15～23）
89.　医療教育における心理学の寄与可能性に関する調査研究. 看護教育における一般教育のあり方に関する検討プロジェクト,　研究報告書,	単	1993年	平成5年度短期大学教育方法等改善経費研究成果報告書,	三重大学医療技術短期大学部教育方法改善研究グループ,　4-15.
90.Maternal speech to three-month-old infants in the United Stated and Japan	共	1990年	Journal of Child Language, 17,	Toda, S., Fogel, A.,& Kawai, M. p.279-294.
91.幼児の異文化における適応―子どもの交遊ネットワークと言語獲得―. 帰国子女・留学生の適応教育に関する調査研究報告書,	単	1987年	名古屋大学教育学部,	p.67-80
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.職業性ストレス簡易調査票を修正した看護学校生活ストレス簡易調査票の構成概念妥当性の検討	共	2018年09月01日	日本医療マネジメント学会雑誌	武岡良展、鈴木里奈、瀬分亮、石橋綾子、成瀬美恵、田中滋己、河合優年、山本初実　Vol19.Number2.pp.103-107
2.「発達過程から見る人間像と観察手法」	単	2010年	2010年臨床漢方薬理研究会大会（第105回手例会）	招待講演：河合優年 漢方医薬学の21世紀的展望「古人は　かく語りき」　第一部Ⅱ「漢方の本質」・「人間」を科学で語れるか（京都薬科大学　躬行館3階）
3.手をつなごう、病児保育と共に　究極の子育て支援を目指して	単	2008年07月	全国病児保育協議会主催　全国病児保育研究大会　in 三重 子どもの育ちと環境プログラム・抄録集 pp.38-41	招待講演：河合優年 (四日市市文化会館)
4.「医療従事者の精神衛生について」	単	2008年06月	独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター	講演者：河合優年 (独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター　管理課２階　地域医療研修センター)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
5.「看護師のストレスマネジメントについて」	単	2008年06月	兵庫県看護協会摂丹支部講演会(兵庫県篠山市立篠山市民センター)	講演者：河合優年 (兵庫県篠山市立篠山市民センター)
6.「育児を科学する」	単	2008年06月	第10回日本母性小児看護学会　学術講演	学術講演者：河合優年 大阪大学中之島センター　10階メモリアルホール
7.「人を結びつけるコミュニケーション～感情と文化を考える～」	共	2007年	日本心理学会公開シンポジウム	講演者：河合優年 (共・余語真夫,大坊郁夫 （於・同志社大学今出川キャンパス　明徳館１番教室）
２．学会発表				
1.幼児期における行動抑制の発達変化（７）－5歳の観察室実験結果と5・6歳の母・先生による行動評価と関連－.	共	2017年07月	国際心理学会第31回大会論文集	難波久美子・河合優年・佐々木惠・山川紀子・山本初実 第31回　大会ポスター発表（横浜パシフィコ）
2.システムズアプローチからみた発達過程(2)KIDS(乳幼児発達検査）5領域の交差遅延モデル分析からの検討	共	2017年03月	日本発達心理学会第28回大会論文集」	河合優年・難波久美子・佐々木惠。小花和W.尚子・山本初美・田中滋己・玉井航太P.432(於：広島大学)
3.発達障がいにどう向き合うか一特別な配慮を必要とする児童・生徒の現状と学校適応一	共	2016年12月	日本教育心理学会 『教育心理学年報』56 pp315-335	日本教育心理学会公開シンポジウム(於：立命館大学) 指定討論者：河合優年 司会吉田甫　　話題提供：中井昭夫・神山哲
4.Short-term Longitudinal Study in Japanese Elementary and Junior High Schools Regarding School Adaptation. -Is There Any Sign before Being Maladjusted?-	共	2016年11月	Proceeding and Abstracts of the 28th Japan-U.S. Teacher Education Consortium (JUSTEC)	Terai.T.,Takai.H.,Alfonso.C.V.,tyaynor.J.,Sunderland.J., Kawai.M. Proceeding and Abstracts of the 28th Japan-U.S. Teacher Education Consortium(JUSTEC)』, Presentation16, p.41(愛媛大学)
5.母体の心理的要因と臍帯血中のバイオマーカーとの関連	共	2016年11月	第70回国立病院総合医学会抄録集	田中滋己・アウンコーウー・盆野元紀・山本初実・井戸正流・河合優年 P.2-42-7（那覇市）
6.Exploring parental behavioral factors which influence to social development of their children for construction of easy developmental test for infants	共	2016年07月	Poster presented at International Congress of Psychology. PS28P-02-146.	Nakayama, R., Namba, K., Kawai, M.
7.The maternal affect toward infants during the puerperal period might be correlated with the biomarkers in cord blood.	共	2016年07月	Poster presented at International Congress of Psychology 2016 PS27A-06-335.	anaka, S., Yamakawa,N., Tamai, K., Namba, K., Sasaki, M., Obanawa, N. W., Kawai, M., Yamamoto, H. (July, 2016. Yokohama, Japan).

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
8.The effect of self-regulation behaviors at 3.5, 5, and 6years old on temperaments at their school age.	共	2016年07月	Poster presented at International Congress of Psychology 2016. PS26A-02-183	Namba.K.,Kawai.M.,Sasaki.M.,Tanaka.S & Yamamoto.H (July, 2016. Yokohama, Japan).
9.幼児期における行動抑制の発達的変化（６）5歳、6歳の実験室場面における抑制行動と熟慮性ー衝動性との関連	共	2016年05月	日本発達心理学会第27回大会論文集	難波久美子・河合優年・佐々木惠・山川紀子・山本初美 P.539(北海道大学)
10.新生児期における制御性Ｔ細胞の自然免疫への関与	共	2015年10月	第69回国立病院総合医学学会	田中滋己・須麗清・アウンコーウー・盆野元紀・山本初実・井戸正流・河合優年（札幌）
11.大規模コホートデータによる乳幼児発達と母親要因の検討（２）－10か月時のASD早期兆候項目と母親の育児ストレスー	共	2015年09月	日本心理学会第79回大会発表論文集3EV-105	難波久美子・石川道子・中山留美子・河合優年　（名古屋大学）
12.　Which components would be needed to develop successful self-regulation in early childhood?	共	2015年09月	Poster presented at the Developmental Section and Social Section Annual Conference 2015 of the British Psychological Society. Abstracts,	Namba, K., Kawai, M., Tamai, K., Sasaki, M., Ishikawa, M., Obanawa, N. W., Yamakawa, N., Tanaka, S. & Yamamoto, H. P. 120 (September, 2015.Manchester, UK)
13.Developmental change of mother-infant interaction (4-42 months) through microanalytical investigation.	共	2015年09月	Poster presented at the Developmental Section and Social Section Annual Conference 2015 of the British Psychological Society. Abstracts,	Kawai, M., Namba, K., Sasaki, M., Ishikawa, M., Obanawa, N. W., Yamamoto, H., Yamakawa, N., Tanaka, S. & Tamai, K. P.59 (September, 2015. Manchester, UK).
14.Short Term Longitudinal Study of Changing Patterns of Self-Reported Bulling/ Approval Score of Children from Elementary to Middle School.	共	2015年09月	Proceeding and Abstracts of the 27th Japan-U.S. Teacher Education Consortium (JUSTEC), Presentation 3, p.23,	Terai Tomoko, Takai Hiromi, Vincent C. Alfonso,Jon Sunderland, John Traynor, Kawai Masatoshi University of West Florida(America)(口頭発表)
15.大規模コホートデータによる乳幼児発達と母親要因の検討（１）－フォロー結果とその後の運動発達指標との関連－	共	2015年08月	日本教育心理学会第57回総会発表論文集PA069.	難波久美子・河合優年（新潟大学）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
16.新生児期における自然免疫の制御機構の解析～制御性T細胞によるNK細胞の制御機構を中心に～	共	2015年06月	日本赤ちゃん学会第15回学術集会	田中滋己・須麗清・アウンコーウー・山本初実・河合優年（高松市）
17.幼児期における行動抑止の発達的変化（5）3.5歳、5歳、6歳の実験室場面における抑制行動のマイクロ分析	共	2015年03月	日本発達心理学会第26回大会論文集	難波久美子・河合優年・佐々木惠・山川紀子・山本初実 P.1-010（東京大学）
18.母体のストレスが児に及ぼす身体的・生理学的影響の解明－第2報－	共	2014年11月	第68回国立総合病院総合医学会講演抄録集	田中滋己・盆野元紀・山川紀子・山本初実・井戸正流・河合優年・アウンコーウー P.904（独立行政法人国立病院機構　横浜医療センター）
19.幼児期における行動抑制の発達的変化(4)5歳の観察室実験結果と5・6歳の母・先生による行動評価との関連	共	2014年11月	日本心理学会大56回総会発表論文集	難波久美子・河合優年・佐々木惠・山川紀子・山川初実　（ポスター発表） P.909（神戸大学）
20.A Cross Cultural Comparison of Japanese and American Elementary and Middle-School Children's Attitudes and Behaviors toward Academic and Social Issues2 - From the Results of Japanese Students' Short Term Longitudinal study- Proceeding and Abstracts of the 26th Japan-U.S.	共	2014年09月19日	Teacher Education Consortium (JUSTEC)	Kawai, M., Sunderland, J., Traynor, J., Takai, H. & Terai, Presentation1, P.22,(Tokyo Gakugei UniversityJapan) 口頭発表
21.Early biological factors in mother infant relation: Immunological and endocrinological functions in cord blood might be the interpretative variables of maternal affect toward infants during the puerperal period.	共	2014年09月	Poster presented at the Deveropmental Section Annual Conference 2014 of the British Psychological Society	Yamamoto.H.,Tanaka.S.,Tamai.K.,M.obanawa.N.W&Kawai.M Abstracts.P.83(Amsterdam.Netherland)
22.幼児期における行動抑制の発達変化(3)5歳児・6歳児の母親、先生、友人に対する抑制	共	2014年09月	日本心理学会大第78回総会発表論文集	難波久美子・河合優年・佐々木惠・山川紀子・山本初実 P.1050(同志社大学)
23.Relationship	共	2014年09月	Poster	Namba, K., Kawai, M., Sasaki, M., Ishikawa, M., Obanawa, N.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
between self-regulation in early childhood and index scores in WISCⅢ			presented at the Developmental Section Annual Conference 2014 of the British Psychological Society.	W., Yamamoto, H., Yamakawa, N., Tanaka, S. & Tamai,K. Abstracts, P.85. (September, 2014. Amsterdam, Netherland)
24.Relationship between mother-infant interaction (4 to 42 months) and later social/ comprehensive development.	共	2014年09月	Poster paresented at the Deveropmental Section Annual Conference2014 of the British Psychological Society.	Kawai.M..Namba.K..Sasaki.M..Obanawa.n.w..Yamamoto.H.. Yamakawa.N..Tanaka.S.&Tamai.K Abstracts.P.123 (Amsterdam.Netherland)（口頭発表）
25.乳児後期の母親～すくすく相談会の取り組みについて～	共	2014年07月	第49回日本公衆衛生学会近畿地方会　口演・示説要旨集　p.61	岡崎綾乃・湯川洋子・杉森佐智・稲田綾子・松田有香・塚本聡子・松原美代子・真裏則代・小田照美・水上健冶・薗潤・難波久美子・河合優年　P61(京都テルサ)
26.母体のストレスが胎児に与える免疫学的影響－第3報－	共	2014年06月	日本赤ちゃん学会第14回学術集会.プログラム・抄録集	田中滋己・山本初実・河合優年 P41.（日本女子大学, 6月）
27.システムズアプローチからみた発達過程（１）	共	2014年03月	日本発達心理学会第25回大会論文集	難波久美子・河合優年・佐々木惠・小花和　W.尚子・山本初実・山川紀子・田中滋己・玉井航太　P.594（ポスター発表）（京都大学）
28.母体のストレスが児に及ぼす身体的・生理学的影響の解明	共	2013年11月	第67回国立病院総合医学会	田中滋己・盆野元紀・山川紀子・山本初実・井戸正流・河合優年（石川）
29.潜在成長曲線分析を用いた発達経路の探索的検討（2）成長パラメーターを予測する変数の検討	共	2013年09月	日本心理学会第77回大会発表発表論文集	玉井航大・難波久美子・河合優年・山本初実 P.1029(北海道医療大学)（ポスター発表）
30.潜在成長曲線分析を用いた発達経路の探索的検討（1）KIDS総合発達年齢を用いたモデルの提示	共	2013年09月	日本心理学会第77回大会発表論文集	難波久美子・玉井航大・河合優年・山本初実 P.1026（ポスター発表）　（北海道医療大学）
31.幼児期における行動抑制の発達的変化(2)結果の組み合わせに注目して	共	2013年08月	日本教育心理学会第55回総会発表論文集	難波久美子、河合優年、佐々木惠、山川紀子、山本初実 P.500（ポスター発表）（法政大学）
32.幼児期における行動抑制の発達的変化（１）がまん時間を指標として	共	2013年08月	日本教育心理学会第55回総会発表論文集	河合優年、難波久美子、佐々木惠、山川紀子、山本初実 P,499（ポスター発表）（法政大学）
33.A comparison of Japanese and American elementary and middle school students' perceptions of academic and social issues.	共	2013年06月	37th Annal Pacific Consorium Conference Shaing Perspective-Intemational Conversations about Education: Recurrings Themes in PCC	Sunderland,J.,Kawai,M.,Traynor,J,H,.&Terai,T Hawaii Imin Intermnational Conference Center.University of Hawaii at Manoa,United States
34.5・6歳児における同	共	2013年05月	第55回日本小児神	山川紀子・杉野典子・田中滋己・河合優年（大分）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
画探索（MFF）検査を用いた「熟慮性ー衝動性」の測定と発達プロファイルによる特徴についての検討			経学会学術集会	
35.A Cross Cultural Comparison of Japanese and American Elementary and Middle-School Children's Attitudes and Behaviors Toward Academic and Social Issues.	共	2013年05月	Proceeding and Abstracts of the 25th Japan-U.S. Teacher Education Consortium (JUSTEC)	Kawai Masatoshi, John Traynor, Takai Hiromi, Terai Tomoko, & Jon Sunderland Presentation10, p.21, University of Puget Sound(United States). 口頭発表
36.5歳児における「熟慮性ー衝動性」の測定と発達の状況との関連についての検討	共	2012年11月	第27回三重県母性衛生学会学術集会抄録	山川紀子・森繁子・西知美・大谷範子・難波久美子・田中滋己・河合優年・山本初実　P.9（三重）
37.母体の受けるストレスと胎児の免疫特性との関連	共	2012年11月	第27回三重母性衛生学術集会抄録	田中滋己・山本初実・河合優年　P.6(三重)
38.すくすくコホート三重の相談内容～成長に伴う相談内容の変化と子どもの発達状況との関係～	共	2012年11月	第27回三重県母性衛生学会学術集会抄録	大谷範子・西知美・森繁子・山川紀子・田中滋己・難波久美子・河合優年・山本初実　P.6（三重）
39.「コウホーと研究への招待－調査デザインと分析法－」	共	2012年09月	第76回日本心理学会ワークショップ 日本心理学会発表論文集 p28	指定討論　河合優年 （企画者）横山詔一・前田忠彦・中村隆　（司会者）前田忠彦 （話題提供者）前田忠彦・中村隆・横山詔一(専修大学)
40.睡眠中αアミラーゼの個人差（2）	共	2012年09月	日本心理学会第76回大会発表論文集	小花和Wright尚子・河合優年・山本初実（ポスター発表）　（於・専修大学）
41.5歳児における同画探索(MFF)テストを用いた「熟慮性ー衝動性」の測定と発達の状況との関連についての検討	共	2012年09月	第59回日本小児保健協会学術集会講演集	山川紀子・森繁子・西知美・大谷範子・難波久美子・田中滋己・山本初実・河合優年　P.190（岡山）
42.MBSSを用いたストレス認知の型とレジリエンス	共	2012年09月	日本心理学会第76回大会発表論文集	佐藤安子・河合優年（ポスター発表）（専修大学）
43.すくすくコホート三重の育児相談からみえてきたもの～成長に伴う相談内容の変化と子どもの発達状況との関係～	共	2012年09月	第59回日本小児保健教会学術集会講演集	大谷範子・西知美・森繁子・山川紀子・難波久美子・田中滋己・河合優年・山本初実 P.145（岡山）
44.すくすくコホート三重の協力者における42か月児の行動特性と母親のレジリエンス及び自尊心との関係についての検討	共	2012年07月	第26回三重県母性衛生学会学術集会抄録	山川紀子・大谷範子・西知美・森繁子・難波久美子・田中滋己・河合優年・山本初実　P.6(三重)
45.臨地実習前後における看護学生の心理的対処のタイプが及ぼ	共	2012年07月	第26回三重県母性衛生学会学術集会抄録集	青樹智美・亀岡恵子・瀬分亮・新屋君香・鈴木八千代・佐藤安子・河合優年 P.7（三重）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
す影響の検討（日本版MBSSを用いた検討）				
46.母体のストレスが胎児に与える免疫学的影響	共	2012年06月	第12回日本赤ちゃん学会発表論文集	田中滋己・山本初実・河合優年　P.4　（東京）
47.絵本場面における母子相互作用の変化と発達指標との関連ー”ページをめくる・本を見る”やり取りのマイクロ分析結果からー	共	2012年03月	日本発達心理学会第23回大会発表文集	難波久美子・河合優年　P.268（ポスター発表）（名古屋国際会議場）
48.実験室観察場面における母子行動と後の社会性発達（2）－乳児の観察場面特徴とKIDSとの関係ー	共	2012年03月	日本発達心理学会第23回大会発表論文集	河合優年・難波久美子・荘厳舜哉　P.241（ポスター発表）（名古屋国際会議場）
49.生後30・42か月時の自己抑制課題の結果に関連する要因についての検討	共	2011年10月	第8回子ども学会議学術集会大会プログラム	山川紀子・大谷範子・西　知美・森　繁子・難波久美子・田中滋己・河合優年・山本初実 P.26.（武庫川女子大学）
50.乳児期における子育てに対する困惑感・充実感と育児行動の関連	共	2011年10月	第8回子ども学会議学術集会大会プログラム	難波久美子・塚本聡子・浦岡由紀・川崎陽子・田谷圭子・和田左江子・小田照美・河合優年　P.23.（武庫川女子大学）
51.すくすくコホート三重の協力者における42か月児の特性と母親の心理状態との関係についての検討	共	2011年09月	第58回日本小児保健協会学術集会講演集	山川紀子，大谷範子，西　知美，森　繁子，難波久美子，田中滋己，河合優年，山本初実 P.172.（名古屋国際会議場）
52.Effects of mother-infant-interaction styles during picture-book sharing activity at 9months of age on subsequent development.	共	2011年08月	Poster presented at 15th European Conference on Developmental Psychology.	Namba, K., Kawai, M. (August, 2011. Bergen, Norway).
53.実験室観察場面室における母子行動と後の社会性発達（1）―観察場面における母子行動の評価方法の検討―	共	2011年03月	日本発達心理学会第22回大会発表論文集	河合優年・難波久美子・荘厳舜哉・山川紀子・山本初実（ポスター発表）P.218（於・東京学芸大学）
54.絵本の読み聞かせ場面における母親の発話行動の発達的変化―4・9・18・30ヶ月の性別の推移―	共	2011年03月	日本発達心理学会第22回大会発表論文集	難波久美子・河合優年　（ポスター発表）P.176（於・東京学芸大学）
55.「小児医療から見た子どもの育ち」		2011年	第８回子ども学会シンポジウム　議学術集会　大会プログラム　pp.4	指定討論者：河合優年 座長：榊原洋一 話題提供者：藤村正哲・金澤忠博　（於・武庫川女子大学(兵庫県西宮市)）
56.子どもの社会性はどのようにして育つか	共	2011年	甲南女子大学　国際子ども学研究センター第64回公開シンポジウム	(プレゼンテーター：河合優年・パネリスト：小林登・司会：一色伸夫　於・日本大学)（編者）、こども学1998－2010（Pp.115-126）
57.「複雑系としての渋		2011年	第75回日本心理学	指定討論者：河合優年

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
滞とメカニズム」			会　ワークショップ　発表論文集 pp.13	企画者・司会者：岡林春雄 話題提供者：西成活裕・千野直仁・中川正宣・鈴木　平・河合優年 （於・日本大学）
58.「子どもが育つための条件とは何か？」	共	2011年	第75回日本心理学会　ワークショップ　発表論文集 pp.13	指定討論者：河合優年 企画者・司会者：高橋惠子 話題提供者：明和政子・松見淳子・坂元　章・柏木惠子・河合優年 （於・日本大学）
59.作文活動が小学生の生活態度・意識に及ぼす効果	共	2011年	日本発達心理学会　第22回　大会	河合優年・税所涼子　ポスター発表（東京学芸大学）
60.睡眠中αアミラーゼの個人差ー自己意識的感情からー	共	2011年	日本心理学会第75回大会発表論文集	小花和Wright尚子・河合優年・山本初実（ポスター発表）（於・日本大学）
61.モニター度とボランター度がレジリエンズ状態とストレスに及ぼす影響	共	2011年	日本心理学会第75回大会発表論文集	佐藤安子・河合優年・山本初実（ポスター発表）（於・日本大学）
62.母親はどのように子どもを理解していくのか	共	2011年	日本発達心理学会第22回大会発表論文集	須貝香月・河合優年（ポスター発表）（於・東京学芸大学）
63.乳幼児発達コホートにおける協力者の3歳6か月時の行動観察評価	共	2010年09月	第57回日本小児保健学会	山川紀子・大谷範子・西知美・森繁子・難波久美子・田中滋己・河合優年・山本初実　P129(朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター）)
64.唾液中αアミラーゼの日内変動ー測定方法による比較ー	共	2010年09月	日本心理学会第74回大会論文集	小花和W.尚子・河合優年・山本初実　P.495（大阪大学）
65.文字なし絵本を用いた母親の読み聞かせの変化ー4ヶ月齢と9か月齢との比較ー	共	2010年09月	日本心理学会第74回大会論文集	難波久美子・河合優年　P.1008（大阪大学）
66.　乳児後期の母親～すくすく相談会の取り組みについて～	共	2010年07月	第49回日本公衆衛生学会近畿地方会　口演・示説要旨集	岡崎綾乃・湯川陽子・杉森佐智子・稲田綾子・松田有香・塚本聡子・松原美代子・真浦則代・小田照美・水上健治・薗潤・難波久美子・河合優年 P.61.（京都テルサ）
67.乳幼児発達「すくすくコホート三重」における、42か月時の評価	共	2010年07月	三重母性衛生学会夏季特別講演会	山川紀子・大谷範子・西知美・森繁子・難波久美子・河合優年・田中滋己・山本初実・Japan Ghildren's Study （三重県立看護大学）
68.母子のコミュニケーション・パターンの発達的変化（１）－おもちゃを介した母子相互作用場面の表情・視線・発生によるパターン抽出ー	共	2010年03月	日本発達心理学会第21回大会論文集	難波久美子・河合優年 P.360（神戸国際会議場）
69.母子のコミュニケーション・パターンの発達的変化(2)－KIDS得点との関連ー	共	2010年03月	日本発達心理学会第21回大会論文集	河合優年・難波久美子 P.361（神戸国際会議場）
70.「子どもたちの明日に向けて～すこやかに育つ環境を、科学的に解明します～」	単	2010年	すくすくコホート公開シンポジウム　プログラム・抄録集pp.23-24(独立行政法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター	シンポジスト：河合優年 「脳科学と社会」研究開発領域　計画型研究開発「日本における子供の認知・行動発達に影響を与える要因の解明」）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			主催　「脳科学と社会」研究開発領域　計画型研究開発「日本における子供の認知・行動発達に影響を与える要因の解明」）	
71.児の言語・社会性発達と母親の発話・育児ストレスとの関連ー4ヶ月齢における文字のない絵本を介した母子相互作用場面を用いてー	共	2009年08月	日本心理学会第73回大会論文集	河合優年・難波久美子・JCS P.1202（立命館大学）
72.母子相互作用のパターンが子どもの社会性の発達に与える影響について(3)－マイクロ分析による4・9ヶ月・18ヶ月児の行動カテゴリーの発達的傾向についてー	共	2009年08月	日本心理学会第73回大会論文集	河合優年・難波久美子・JCS P1137 （立命館大学）
73.現代の育成期家族をめぐる看護実践の先駆的試み	単	2009年06月20日	日本母性看護学会各術集会	シンポジスト「母と子の絆：母子関係は変容してゆくのか（千葉大学けやき会館人文社会科学総合研究棟）
74.絵本の読み聞かせと子どもの言語・社会性発達との関連―4ヶ月齢・9ヶ月齢野KIDS得点との関連から―	共	2009年03月	日本発達心理学会第20回大会発表論文集p.411	難波久美子・河合優年(日本女子大学)
75.「子どもの発達を支えるもの：子ども達の明日に向けて」日本のこどもの発達コホート研究		2009年02月	第６回都島すくすくフォーラム	シンポジスト：河合優年（大阪市立総合医療センター　さくらホール）
76.子どもの社会性はどのように育つか		2009年	子ども学,2010,第12号	シンポジウム（甲南女子大学国際子ども学研究センター）
77.現代の育成期家族をめぐる看護実践の先駆的試み	単	2009年	第11回日本母性看護学会学術集会	シンポジスト：河合優年（千葉大学　けやき会館）
78.母子相互作用のパターンが子どもの社会性の発達に与える影響について（２）マイクロ分析による4・9ヶ月の母子相互作用パターンと18ヶ月児の社会性との関係性について.	共	2008年09月	日本心理学会第72回大会発表論文集,	河合優年・難波久美子　P.1114.（於・北海道大学）
79.母子相互作用のパターンが子どもの社会性の発達に与える影響について（１）母親の音声的な働きかけと表情による働きかけからの検討.	共	2008年09月	日本心理学会第72回大会発表論文集,	難波久美子・河合優年　ｐ.1113（北海道大学）
80.The Relationships between Parents'	共	2008年07月	20th BIENNIAL ISSBD MEETING,p.	K. Namba & M.Kawai

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Attitudes toward Controlling their Child and the Child's Sociability.			668. International Society for the Study of Behavioural Development (ISSBD)	
81.「縦断研究の発達心理学的意味再考」	共	2008年03月	日本発達心理学会第19回大会会員企画ラウンドテーブル　発表論文集 pp180	企画提供者・話題提供者：河合優年 (企画提供者：河合優年 話題提供者：河合優年・高橋恵子・安藤寿康 コメンテーター：陳省仁 於・大阪国際会議場(大阪府大阪市))
82.「指尖脈波のカオスアトラクタは精神状態を反映するか？－ダイナミカルシステムの視点からの考察－」		2008年	日本心理学会第72回大会ワークショップ　発表論文集pp.22	指定討論者：河合優年 企画者・司会者：岡林春雄 話題提供者：鈴木平　指定討論者：雄山真弓・千野直仁・中川正宣・河合優年　於・北海道大学
83.1歳半児を持つ母親のレジリエンスが精神的健康に及ぼす影響.	共	2008年	日本発達心理学会第19回大会発表論文集,	小池はるか・山川紀子・佐藤安子・河合優年・山本初実 p.319. (大阪国際会議場)
84.両親の育児方針の一致が子どもの発達に与える影響について -主観的な一致感と4ヶ月・9ヶ月時のKIDS得点との関連から-.	共	2008年	日本発達心理学会第19回大会発表論文集,	難波久美子・矢藤優子・根ヶ山光一・荘厳舜哉・河合優年 p.814.ポスター発表 (大阪国際会議場)
85.4ヶ月齢の母子相互作用は9ヶ月齢の何を予測するか.	共	2008年	日本発達心理学会第19回大会発表論文集,	荘厳舜哉・矢藤優子・河合優年 p.712.ポスター発表 於・大阪国際会議場
86.子どもの成長から見た一貫教育－なぜ一貫校なのか。その成り立ちと現状について	共	2007年11月	読売新聞「読売・学力シンポジウム　教育の「今」がわかる　一貫教育を考える	パネリスト：河合優年 共・品川区教育長若月秀夫・奈良女子大付属勝山元照 (大阪商工会議所　国際会議ホール　)
87.「日本の子育ての歴史と現状」		2007年	第２回ＭＫＣＲ国際シンポジウム 世界の子育て様式と関西－日・韓・中・米の昔と今－	パネリスト：河合優年
88.幼稚園における食育のあり方に関する研究：Ⅱ.	共	2007年	日本教育心理学会第49回総会発表論文集,	西元直美・河合優年・中村清美・寺井朋子・山本正顕・沼田宙・永迫千容乃・杉本五十洋 p.111.　ポスター発表 (文教大学)
89.9か月児の母親のレジリエンスが育児ストレスに与える影響の検討.	共	2007年	日本応用心理学会第74回大会,	小池はるか・河合優年・山本初実 p.82.ポスター発表 (帝塚山大学)
90.多変量データに基づいて類型化された4ヵ月齢児の行動パターンと母親の育児ストレス－Still-Face場面の行動分析から－	共	2007年	日本心理学会第71回大会発表論文集,	矢藤優子・田中大介・河合優年・前田忠彦・富和清隆・山本初実 (東洋大学)ポスター発表
91.「すくすくコホート三重」における乳幼児発達観察のまとめ	共	2007年	第61回国立病院総合医学会,	山川紀子・小池はるか・大谷範子・池畠美知子・盆野元紀・河合優年・山本初実 ポスター発表
92.Behavioral	共	2007年	Society for	H. Kawaguchi, B. Murakami, and M.Kawai(@ San Diego)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Characteristics of HFPDD Children during a Game.			Neuroscience, 2007 Annual Meeting	
93.研究開発領域「脳科学と社会」「発達コホート調査と脳科学の方法的接点」～真の学際的協調を目指して～	単	2006年03月	第２回情報統計ワークショップ	パネリスト：河合優年
94.「発達研究における異なる方法間の協調を目指して」		2006年	第２回情報統計ワークショップ	パネリスト：河合優年
95.CBQ Short Form を用いた幼児を対象とした気質の測定－横断研究から見た気質の発達的変化－.	共	2006年	日本発達心理学会第１７回大会発表論文集,	沼田宙・河合優年 p.578. (九州大)
96.幼児の視覚マッチング課題の検討－課題特性による速度/誤りトレードオフについて－	共	2006年	日本発達心理学会第１７回大会発表論文集,	河合優年・沼田宙 p.577.ポスター発表 (九州大学)
97.Japanese 4-month-old Infants' and Mothers' Interaction in Still-Face Situation.	共	2006年	The 19th biennial meeting of international society for the study of behavioral development.	Yuko Yato, Masatoshi Kawai, Toshiya Kayamura, Koichi Negayama, Shunya Sogon, Kiyotaka Tomiwa, Hatsumi Yamamoto (Melbourne, Australia)
98.Characteristics of upper limb movement of pre-term/LBW new born babies.	共	2006年	19th Biennial Meeting International Society of behavioural development.	
99.幼稚園における食育のあり方に関する研究－Ｉ－	共	2006年	日本教育心理学会第48回総会発表論文集, .	河合優年・西元直美・沼田宙・中村清美・永迫千容乃・杉本五十洋・望木郁代・山口直範 p.387(岡山大学)
100.Still-Face場面における母子の行動分析.	共	2006年	日本心理学会第70回大会発表論文集,	矢藤優子・河合優年 p.1174.ポスター発表
101.対立概念を通して見たダイナミカル・システム・アプローチ（ＤＳＡ）	共	2006年	日本心理学会第70回大会ワークショップ　発表論文集W46	指定討論者：河合優年 企画者・司会者：岡林春雄 話題提供者：小島康次・千野直仁　指定討論者：中川正宣・河合優年 於・福岡国際会議場
102.「A pilot study of JCS as preparation of cohort study（Ｉ）infancy」		2005年11月	The First International Symposium on Cohort Studies Based on Brain-Science(1st ISCS-BBS	シンポジウム （国連大学　ウ・タント国際会議場）
103.「日本のコホート研究から」	共	2005年11月	第４回新・赤ちゃん学　国際シンポジウム　－子育てを科学する－	パネリスト：河合優年 （東京:大手町サンケイプラザ）
104.「長期研究準備のた		2005年11月	研究開発領域「脳	パネリスト：河合優年

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
めの短期研究（Ｉ）乳児期」			科学と社会」第１回国際シンポジウム「脳科学を基調としたコホート研究	
105.ダイナミカル・システム・アプローチ入門－その現代的意味と今後の展開可能性－	共	2005年09月	研究開発領域「脳科学と社会」第１回国際シンポジウム「脳科学を基調としたコホート研究	指定討論者：千野直仁・河合優年 企画者・司会者：岡林春雄　話題提供者：中川正宣 （於・慶應義塾大学）
106.すくすくコホート三重－２１世紀を担う子どもの発達を探る		2005年04月	科学技術振興機構社会技術研究システムシンポジウム	
107.「幼児の視覚マッチング課題の検討－課題特性による速度/誤りトレードオフについて－」	共	2005年	日本発達心理学会第１７回大会	ポスター発表
108.「CBQ Short Formを用いた幼児を対象とした気質の測定－横断研究から見た気質の発達的変化－		2005年	日本発達心理学会第１７回大会	ポスター発表
109.「子供をとりまく現状について」		2005年	ＪＳＴミッションⅢ　津公開シンポジウム　「２１世紀を担う子供の発達を探る」	パネリスト：河合優年 (三重県総合文化センター)
110.早産児・低出生体重児の自発性運動の行動解析	共	2004年11月		内野理加、盆野元紀、山本初実、駒田美弘
111.新生児・早産児における生理的周期確立に関する研究	共	2004年11月		Begum Esmot Ara、盆野元紀、山本初実、駒田美弘
112.脳科学と教育		2004年09月	日本心理学会第68回大会公開シンポジウム　発表論文集S6	企画者・指定討論者：河合優年 企画者：河合優年・田中俊也 司会者：田中俊也 話題提供者：小西行郎・小泉英明・川島隆太・八田武志　指定討論者：河合優年（於・関西大学）
113.「ダイナミカル・システム・アプローチというパラダイムシフト」		2004年09月	日本心理学会第68回大会ワークショップ　発表論文集W34	話題提供者：河合優年 企画者・司会者：岡林春雄 話題提供者：河合優年・千野直仁 （　於・関西大学）
114.”Emotion intelligence and child rearing in culture”		2004年08月	28th International Congress of Psychology（ICP2004）	シンポジウム Invited Symposium. Coconvener. In Beijing.
115.日内周期の形成過程に関する研究	共	2004年03月	日本発達心理学会第15回大会発表論文集，　340.	望木陦代 新生児の心拍、呼吸などの生理的活動が、週数とともにどのように変化するのかを分析した。生後１カ月までの段階で、比較的明確なサーカディアンリズムが観察された。このことは、新生児の環境への適応が比較的早い段階から形成されることを示している。(於・白百合女子大学)
116.「子供の発達に関する研究に望むもの」		2004年	ＪＳＴミッションⅢ公開シンポジウム「２１世紀を担う子供の発達を探	パネリスト：河合優年 (国際連合大学)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			る」　パネル・ディスカッション	
117.「自己組織化、非線形、入れ子構造になった因果関係論、等の特徴を持つダイナミカル・システム理論が新しい心理学を作ろうとしている。」		2003年	日本心理学会第６７回大会シンポジウム　発表論文集S57	話題提供者：河合優年 企画者・司会者：岡林春雄　話題提供者：多賀厳太郎・河合優年 （　於・東京大学）
118.「『養護性』を育む」		2003年	日本発達心理学会第１４回大会　大会準備委員企画シンポジウム　発表論文集pp.21	司会者：河合優年 企画者：松村京子・須田治　司会者：河合優年 話題提供者：河野公子・佐々木正美・松村京子・井澤信三 指定討論者：須田治・遠藤利彦 （於・兵庫教育大学）
119.幼児の行動表出の形とその調整過程について－親子のやりとりと子どもの行動特徴から－.	共	2003年	日本発達心理学会第14回大会発表論文集,	権部良子・河合優年 p.157.(兵庫教育大学)
120.「子育てにおいて変わるもの・変わらないもの」		2002年	日本心理学会第６６回大会シンポジウム　発表論文集S42	話題提供者：河合優年 企画者・司会者・話題提供者：荘厳俊哉 話題提供者：河合優年・氏家達夫 （於・広島大学）
121.「発達研究におけるダイナミック・システムズ・アプローチの方法論的検討」		2002年	日本発達心理学会第13回会員企画シンポジウム　発表論文集pp.29	話題提供者：河合優年 企画者・司会者：小島康次 話題提供者：河合優年・月本洋・小島康次・都築善史 指定討論者：鈴木宏昭　（於・早稲田大学）
122.看護学生の共感性の発達と他者評価との関連　－精神看護学実習前後変化からの検討－		2001年09月	日本教育心理学会第43回総会発表論文集,	（林智子）□看護学生の適性を、他者に対する共感性という視点からとらえ分析した。(愛知教育大学)
123.新生児期の感覚運動発達とその適応的意味		2001年06月	第104回日本小児科学会学術集会　日本小児科学会誌105（３）　シンポジウム	パネリスト：河合優年 (仙台国際センター・宮城県スポーツセンター) 新生児の子宮外環境への適応過程をこれまでの発達研究をもとに議論した。招待講演者として話題提供を行った。
124.不登校解決事例における母子関係の変化の過程　－学校における母子並行サポート－	共	2001年03月	日本発達心理学会第12回大会発表論文集	（加藤裕子）□学校場面におけるカウンセリングの過程をプロセスレコードに基づいて分析し、その回復過程を明らかにした。（pp.302）(鳴門教育大学)
125.感情抑制の発達を規定する３つの要素：文化環境の要因		2001年03月	日本発達心理学会第12回大会会員企画シンポジウム発表論文集S46	パネリスト：河合優年 (鳴門教育大学) 比較文化研究から見た感情の統制機能について話題を提供した。
126.極，超低体重児に対するカンガルーケア：脳内酸素飽和度. NICULANシステムを用いた生態情報の解析		2000年09月	日本未熟児新生児学会雑誌，　12(3),	（伊藤美津江・益野元紀・澤田博文・田中滋已・山本初実・多喜紀雄・駒田美弘）□カンガルーケアによる身体接触が児の脳血流に影響を及ぼすことが明らかとなった。（pp.105）
127.NICULANシステムを用いた児の48時間サーカディアンリズム解析とリスク予測		2000年09月	日本未熟児新生児学会雑誌，　12(3)	（望木郁代・山本初実・澤田博文・益野元紀・田中滋已・多喜紀雄・駒田美弘）□未熟児のサーカディアンリズムと児のリスクとの関係について分析がなされた。（pp.104）
128.NICULANシステムによる患児生体（生態）情報の一元化の試み	共	2000年09月	日本未熟児新生児学会雑誌，　12(3),	（山本初実・澤田博文・益野元紀・田中滋已・多喜紀雄・駒田美弘）□ＷＡＳＪシステムを用いた、赤ん坊のモニタリングシステムについての発表がなされた。（pp.104）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
129.Cultural Differences of Mother-Infant Interaction Beween China and Japan：Mother's Belief Systems and The Infant Behavior		2000年07月	ＸＶIth Biennial Meetings of ISSBD.	国際発達心理学会でのシンポジウムの企画および話題提供者として、日本と中国の子育ておよび情緒統制についての発表を行った。（pp.37）(Beijing, China)
130.発達における行動と身体　－行動発達と身体成長－		2000年03月		人間行動の形成とその機構についての話題提供を行った。
131.「発達における行動と身体　－行動発達と身体成長－」		2000年	日本発達心理学会第11回大会自主シンポジウム　発表論文集S46(企画者・司会者：南徹弘　話題提供者：濱田穣・吉田高志・日野林俊彦指定討論者：河合優年　於・東京女子大学	指定討論者：河合優年 企画者・司会者：南徹弘　話題提供者：濱田穣・吉田高志・日野林俊彦 指定討論者：河合優年　（於・東京女子大学）
132.Theory to Resaech -What Makes Development?-		1999年03月		学会主催の国際シンポジウムであり、発達の理論とその枠組みについての議論がなされた。企画司会
133.「Theory to Resaech -What Makes Development?-」		1999年	日本発達心理学会第10回大会公開シンポジウム２　発表論文集pp.73	企画者・司会者：河合優年 話題提供者：Alan Fogel・Geert Savelsbergh・多賀厳太郎 指定討論者：陳省仁　（於・大阪学院大学）
134.未熟児・新生児研究　これまでそしてこれから		1997年03月		未熟児研究のこれまでの流れを概観し、これからの研究の方向性を検討するためのシンポジウムであった。企画・司会
135.生後１～５日の新生児における上肢運動発達　－重力情報と上肢運動の関係について－		1997年03月	日本発達心理学会第８回大会発表論文集，　4.	新生児の上肢運動の解発因としての重力という視点から、上肢の動きが解析された。(大阪大学)
136.「未熟児・新生児研究　これまでそしてこれから」		1997年	日本発達心理学会第８回大会ミニシンポジウム　発表論文集S19	企画者・司会者：河合優年 企画者：河合優年・神谷育司 司会者：河合優年 話題提供者：竹内徹・河野通子 指定討論者：神谷育司（　於・大阪大学）
137.人における初期手指運動発達について　－未熟児における上肢運動－	単	1996年03月	日本発達心理学会第７回大会発表論文集，　97.	未熟児の上肢運動がどのように形成されるのかについて、マイクロ分析を用いた検討がなされた。(埼玉県県民活動総合センター)
138.　乳児期における上肢運動系の発達－発達の規定因について－	単	1995年	日本発達心理学会第6回発表論文集，　50.	(同志社大学)
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.母子関係の成り立ち　Nature-Nurure 論争の今	単	2015年3月	中部出生前医療研究会特別講演	名古屋市立大学病院
2.「乳幼児の発達につ	単	2011年	平成23年度（２０	講師：河合優年

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
いて考える～ヒトから人への変化を作り出すものは何かについて」「乳幼児の発達について考える～人が人間になるということについて」			１１年度）“子どもの心を理解する”講座　テーマ：親子の絆を考える　宝塚教育委員会　青少年センター テーマ：親子の絆を考える　宝塚教育委員会　青少年センター	(宝塚市教育総合センター　3階　視聴覚室)
3.「変容する子どもたち」	単	2008年07月	西宮市立子育て総合センター　第2回幼稚園教育研修会	講演者：河合優年 (西宮市立子育て総合センター　研修室)
4.「パパママ講座～子どもの個性と育て方～」	共	2007年12月	西宮市保健サービス課・武庫川女子大学共催講演会	講師：河合優年 共・石川道子 (西宮市役所東館８階大ホール)
5.「語ろう、いまどき家族」	共	2007年08月	神戸市教育委員会・神戸市ＰＴＡ協議会	パネリスト：河合優年 共・道上洋三他 (松方ホール)
6.「The Japan Child Study: Pilot Cohort Studies Based on Behavioral and Brain Science.」	単	2007年	ユタ大学心理学部教育講演	講演者：河合優年
7.「乳幼児の発達と環境」	単	2007年	山梨小児保健協会母子保健研修会記念講演	講演者：河合優年 (山梨県地場産業センター「かいてらす」)
8.「期待される新しい教育技術の課題」	共	2006年	ナーシング・グラフィカ全33巻　完結記念特別研修会	講演者：河合優年 共・明石惠子 於・大阪国際会議場
9.「科学的臨床実践能力を育てる看護学基礎教育－限られた時間でいかに効果的な学習を進めるか－」		2003年	「ナーシング・グラフィカ」創刊記念シンポジウム	シンポジウム座長：河合優年
10.「乳幼児の発達と理解」	単	1999年	津市　子育てボランティア育成講座	講師
６．研究費の取得状況				
1.基盤研究(B) 新規	共	2015年		乳幼児期の個体・環境要因と児童期の社会的行動の生物学的基盤についてのコホート研究
2.基盤研究（Ａ）　継続		2013年		乳幼児期の個体・環境要因が児童期の社会的行動に及ぼす影響についてのコホート研究
3.基盤研究（Ａ）　継続		2012年		乳幼児期の個体・環境要因が児童期の社会的行動に及ぼす影響についてのコホート研究
4.基盤研究（Ａ）　継続		2011年		乳幼児期の個体・環境要因が児童期の社会的行動に及ぼす影響についてのコホート研究
5.基盤研究（Ａ）　継続		2010年		乳幼児期の個体・環境要因が児童期の社会的行動に及ぼす影響についてのコホート研究
6.基盤研究（Ａ）　新規		2009年		乳幼児期の個体・環境要因が児童期の社会的行動に及ぼす影響についてのコホート研究

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2016年8月1日から2019年6月30日	独立行政法人日本学術振興会　特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会審査委員・書面評価員
2.2015年08月01日から2016年07月31日	独立行政法人日本学術振興会　特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会審査委員・書面評価員
3.2015年07月09日から2016年03月31	平成27年度兵庫県立芦屋国際中等教育学校教科用図書選択委員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
日	
4.2015年06月02日から2016年06月01日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
5.2014年05月13日から2015年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
6.2014年05月13日から2015年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
7.2014年01月01日から2014年12月31日	独立行政法人日本学術振興会　科学研究委員会専門委員
8.2013年05月20日から2014年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
9.2012年04月1日から2013年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
10.2011年01月から2013年12月	日本教育心理学会　常任編集委員
11.2010年12月01日から2011年11月30日	独立行政法人日本学術振興会　科学研究委員会専門委員
12.2010年07月12日から2011年03月31日	平成22年度兵庫県立芦屋国際中等教育学校教科用図書選定委員
13.2010年04月01日から2011年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
14.2009年04月01日から2010年03月31日	平成21年度兵庫県立芦屋国際中等教育学校教科用図書選定委員
15.2009年04月01日から2010年03月31日	文部科学省「学校支援地域活性化推進委員会」委員
16.2009年04月01日から2010年03月31日	文部科学省「子どもの徳育に関する懇談会」委員
17.2009年04月01日から2010年03月31日	文部科学省「道徳教育用教材活用支援事業有識者会議」委員
18.2009年04月01日から2001年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
19.2008年07月17日から2009年03月31日	平成20年度兵庫県立芦屋国際中等教育学校教科用図書選定委員
20.2008年05月02日から2009年03月31日	文部科学省「学校支援地域活性化推進委員会」委員
21.2008年04月01日から2009年03月31日	文部科学省「子どもの徳育に関する懇談会」委員
22.2008年04月01日から2009年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
23.2008年03月11日から2008年03月31日	文部科学省「学校・家庭・地域をつなぐ新たな連携方策の在り方に関する有識者会議」委員
24.2008年02月から2008年03月31日	神戸市教育委員会「「特色ある神戸の教育推進アクティブプラン」検討会」委員
25.2007年07月01日から2008年03月31日	平成19年度兵庫県立芦屋国際中等教育学校教科用図書選定委員
26.2007年05月25日から2008年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
27.2007年02月03日から2007年03月31日	神戸市教育委員会「「特色ある神戸の教育推進アクティブプラン」検討会」委員
28.2006年07月01日から2007年03月31日	平成18年度兵庫県立芦屋国際中等教育学校教科用図書選定委員
29.2006年04月01日から2007年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
30.2006年02月04日から2006年03月31日	神戸市教育委員会「「特色ある神戸の教育推進アクティブプラン」検討会」委員
31.2006年02月03日から2007年03月31日	文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導企画係「情動の科学的解明と教育等への応用に関する調査研究会議」委員
32.2006年から	日本発達心理学会　第6っ気理事
33.2005年09月16日から2006年03月31日	兵庫県企画管理部教育・情報局大学課「兵庫県立大学附属中高一貫教育校基本計画検討委員会」委員
34.2005年07月01日から2006年03月31日	平成17年度兵庫県立芦屋国際中等教育学校教科用図書選定委員
35.2005年04月01日から2006年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
日	
36.2005年02月から2005年03月31日	神戸市教育委員会「「特色ある神戸の教育推進アクティブプラン」検討会」委員
37.2005年	播磨高原広域事務組合教育委員会「播磨高原東中学校運営検討懇話会」委員
38.2004年06月29日から2005年03月31日	平成16年度兵庫県立芦屋国際中等教育学校教科用図書選定委員
39.2004年04月01日から2009年03月31日	独立行政法人科学技術振興機構(JST)「計画型研究開発「日本における子供の認知・行動発達に影響を与える要因の解明」発達心理グループ・グループリーダー
40.2004年04月01日から2005年03月31日	兵庫県立芦屋国際中等教育学校学校評議員
41.2003年12月13日から2004年03月31日	神戸市教育委員会「「特色ある神戸の教育推進アクティブプラン」検討会」委員
42.2003年07月01日から2004年03月31日	平成15年度兵庫県立芦屋国際中等教育学校教科用図書選定委員
43.2002年から2004年	「兵庫県教育委員会芦屋国際中等教育学校カリキュラム検討委員会」会長
44.2002年～	「県立芦屋国際中等教育学校評議会」会長
45.2002年～	「伊丹市教育委員会教育審議会」会長
46.1999年から2003年	文部科学省「文部科学省中高一貫教育フォーラム」基調講演者 日本赤ちゃん学会